

令和4年度第3回三重津海軍所跡保存整備指導委員会 議事録

◎日時：令和5年1月27日（金）9：30～11：40

◎場所：佐賀市立中川副公民館 大・中会議室

◎参加者：

【委員】

有馬会長、安達委員（リモート）、中村委員、本多委員、富田委員

※欠席 渡辺副会長、今津委員、内田委員

【助言者】

佐賀県文化課文化財保護室

※欠席：文化庁、内閣官房

【所有者】

筑後川河川事務所

有明海沿岸国道事務所

※欠席：佐賀県有明海漁業協同組合

【オブザーバー】

筑後川河川事務所諸富出張所

佐賀県立佐賀城本丸歴史館

佐賀県文化課

【庁内関係課】

佐賀市南部建設事務所

佐賀市歴史・文化課

【事務局】

佐賀市文化財課

◎地域振興部副部長挨拶

皆さんおはようございます。

本日はお忙しい中、令和4年度第3回目の三重津海軍所跡保存整備指導委員会にご参加いただきましてありがとうございます。

年が明けまして、令和5年2023年になりまして一月ほど経っておりますけれども、あらためまして皆様あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

本来であれば宮崎部長のほうからご挨拶すべきところですが、公務の都合上、出席出来ませんでしたので私のほうからご挨拶させていただきます。

今週は10年に1度といわれるような寒波があり、かなり雪も降りました。

佐賀のほうでは特に大きな被害等はありませんでしたが、遺跡整備についてこのような大雪や寒波について委員会の中でもこれまで余り議論してこなかったと思います。今回、このような気候変動があったことで、そういう視点を持って整備のほうも検討すべきというふう感じた次第です。

特に、三重津に関しては雨水が遺構の保全と非常に密接な関係がございまして、切って

も切り離せないものですので、先ほど申しましたような視点を持って検討を進めていくべきかというふうに感じたところです。

前回、2回目の会議におきましては、現地整備における動線計画、それからドライドック木組み遺構の保全の考え方と雨水排水計画、ドライドックの遺構表現、駐車場の整備計画についてご説明をしまして、皆様からは、設計を進めていく上でのアドバイスやご意見をいただいております。

本日は、資料をお配りしておりますけれども、前回いただきましたご意見を踏まえまして、特に屋外展示の動線計画、それから、ドライドック付近の雨水排水計画の修正の案、それと追加指定地の整備計画等をお示ししております。

また、本日が今年度最後の委員会となりますので、追加の基本設計も含めまして、整備の基本計画全体の取りまとめにつきましても本日ご議論いただければというふうに思っております。

現地整備もようやく本格的な段階に入っておりますので、全体を見据えた上での活発なご議論いただきますようお願いいたします。

今日は2時間半という長時間になりますけれども、ご検討ご議論いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

◎出席者紹介

委員会出席者名簿で紹介

◎会長挨拶

おはようございます。現在、ミュージアムも含めて、文化財関係施設は、コロナ以前の状況になかなか戻らないということは何処も感じているのではないかと考えています。

大変なことに、一部の経済学者の方はこの状況は簡単には戻らないと予測をしておっしゃる方もいらっしゃいます。そういう意味で言いますと、大変な状況というのはまだまだ続くわけですが、何とかそこを乗り越えていかなければいけない。

このような中で、屋外展示の整備がいよいよ本格的に始まる段階に来ております。

よろしくご審議をお願いいたします。

◎議事

<<確認事項>>

(1) 令和4年度第2回三重津海軍所跡保存整備指導委員会議事録について

●会長

確認事項とあるが、要するに前回の議事録の内容確認。

既に委員の方々には事前に資料が送られているので確認いただいていると思うが、さらに重ねて何かこの場で修正等あったら伺いたい。

【意見等】

特になし

●会長

特に意見はないようなので、この内容で議事録を確定させていただく。

<<報告事項>>

(1) 三重津海軍所跡の追加指定について

【資料説明】

「資料 2」を用いて説明。

【質疑応答】

特になし

(2) 第 2 回委員会での主な意見と対応方針について

【資料説明】

「資料 3」を用いて説明。

【質疑応答】

●委員

資料 3 の「対応方針」の所に書かれた資料番号と配布されている資料の番号がずれている。

○事務局

資料番号を振り直した際に、資料 3 内の資料番号の修正を忘れていました。申し訳ありません。

<<協議事項>>

(1) 屋外展示追加基本設計（案）について

①屋外展示の動線計画（案）について

【資料説明】

「資料 4」を用いて説明。

【質疑応答】

●会長

資料 4 の動線計画（案）は、あくまでこちら側が想定する動線計画で、お客さんは勝手に動くので、いろんなコースを想定してもわからないということがあると思う。その辺りを考えながら、実際に運用してみて、お客さんの声を聞きながら、中身を充実させていくというのが多分一番現実的というふうに思う。

例えば、この 0 番の俯瞰コース、「俯瞰」には違いが、3 階テラスから見ただけだと景色を眺めているだけになる。誰かがあそこにあるのはこういうものだと説明してくれないと見学したことにはならない。実際に現場であれば解説板を読んだりするわけだが。ボランティアガイドさんが横で説明するのか、あるいは音声ガイドが流れるのか、そこでどういう説明するか、工夫をしないといけないとこれはコースにはならない。

動線計画は、大体こういう想定で整備しようということであって、この計画の中にお客さんが入ってくれるというのはあんまり期待しないほうがよくて、むしろ、お客さんが決めるものだと考えた方がよい。それに合わせて、こちらが説明なりガイドなりの整備をするというぐらいのスタンスでいたほうがよいと思う。

●委員

全然違う見地からの提案だが、例えばオンラインツアーガイドというのも検討してみてもどうか。

「来館への呼び水」が目的で、どちらかといえばプロモーションの考え方だが、まず来館してもらうための呼び水としてオンラインのコースを作ってみる。そうすると、実際に現地のそれぞれのコースに行ったとき、どういうものが見えるかななどを疑似体験できるのか、来館されるお客さんが事前に「どっちのコースがいいかな？」といったように見学コースを自分たちで選択できる、自分で計画できるようなオンラインツアー。

もちろん資料の計画案はあれでよいと思うが、それを前もって知ってもらうことで、現実的にも物理的にもこの場所に来てもらうというような、そういうプロモーションとしての考え方でオンラインコースの設定を検討してはどうか。

●会長

常時やるわけではなくもよい。「ゆっくりご覧ください」というスタンスで、ちょっと変な動線とか何かを作ってみるというのも面白い。

基本的にはなかなか現地には来てもらえないので、オンラインツアーガイドでまずどうぞということ。オンラインツアーを見た人が現地に行ってみようかなという気持ちを起こさせるようなそういうオンラインのコース設定。やってみる価値はあるという気がする。何らかの形でバーチャルな体験があるものがほしい。どうかご検討してほしい。あるいは、バーチャルでのコースめぐりを、ちょっとお金がかかるけどローカルなタレントさんが案内してくれるとかね、何かそこら辺のことをやって仕掛けていくと、「現地に行ってみようかな」という気にはなってもらえると思う。

三重津海軍所跡の史跡としての価値は大きなものがあるっていうのは幾らでも強調できるが、それだけではお客さん来てくれない。もう一步、踏み込んで誘導する、魅力的に誘導するっていう手だてを何か考える必要がやっぱりある。

実際、史跡の歴史的な意義を幾ら繰り返し強調しても集客はあまり上がらない。

●委員

資料にあるコース設定とは意味合いが違うが、イベント的なコース設定として川からの視点のコース、船から見たらこの場所がどう見えるか巡ってみるようなコースがあってもよいのではないかと思った。当時の佐賀藩も、陸側で活動した人もいれば、船に乗ってここにやってきた人もいて、その視点で見学するものがあると集客にもつながるかもしれないと感じた。

●委員

先程、提案されたオンラインコースガイドは大変面白いと思う。0番の俯瞰コースとセットで考えると効果があると思う。「現地に行きたい」と思っても外に出られない方や現地を巡ることが難しい方にオンラインコースを紹介して見てもらうといった使い方もできるの

ではないだろうか。ガイダンス整備で作った素材を活用して十分対応可能ではないかという気がする。大変興味深い提案と思う。

(1) 屋外展示追加基本設計（案）について

② ドライドック付近の雨水排水計画（案）について

【資料説明】

「資料 5-1・5-2」を用いて説明

【質疑応答】

● 会長

砂利舗装の試験施工イメージ図には「立入禁止」と書いた看板をあげることになっているが、実際にお客さんに踏んでもらうのではないのか。人が踏んだり車が乗り入れたりすることでどうなるかっていうのを観察したいのであれば、頻繁に人や車が入るところで試験施工したほうがよいと思う。

○ 事務局

試験施工箇所を常時フリーにするというよりは、実際に経過観察で現地を訪れた時に歩いたり車で上を踏んだりして確認を行うイメージだった。悪戯のことを考えて柵を設けようと思っていたが、ご指摘いただいたとおりの整備後の状況を想定した形での検証でなければいけないと感じた。方法や場所について再検討したい。

● 委員

資料 4 の現地整備の動線計画のほうがわかりやすいが、資料に赤い線が入っていて、そこに「海軍所稼働期の護岸ライン」と記載されている。ただ、ドック渠口は「海軍所稼働期の護岸ライン」より内側にあるので矛盾している。

○ 事務局

この赤い線は史跡の指定範囲を示す線になる。この線と「海軍所稼働期の護岸ライン」の文字が重なってしまったことで誤解を招いてしまった。今後誤解がないようする。

● 委員

資料 5-2 にある洋式船の船影をウッドデッキで表現する案についてだが、船の甲板は船首の方向に平行に板を貼る。このウッドデッキは船首に対して直角に板を貼っているから甲板にならない。もし、ウッドデッキを採用するときはそういう点も注意してほしい。

● 委員

コンクリートでよいと思うが、そのコンクリートの場合、雨で濡れたら砂利舗装と同じ色調にならないのかなと思った。色がどういふふうに変化するかということも確認しておいたほうがよいのではないかと思った。今の段階で何か方策は考えているのか。

○ 事務局

洋式船の船影とその周りの砂利舗装については、きちんと区別ができるように素材や色調を変えるようにする予定。特に、船影については、それが目立つようにいろいろ工夫したいと考えている。

● 委員

砂利舗装試験施工の観測表について、表の 5 番目の「透水性の変化（目詰まり等）」の項

目で、常にやることとして水をかけているというのがある。定期的にこの部分に水をかけて状況をみることは必要だと思うが、この場所で想定されるのは、川の水が河川敷まで上がってくること。施工試験期間中にそういう時が実際にあるかもしれないが、技術的に泥を含んだ水がここに何時間か滞水した場合にどんな影響があるのか確認したほうがよい。

水をかけるのに想定されているのは水道水だと思うが、ちょっと質の違うものを含んだ水分をかけてみるのも必要ではないかと感じた。

○事務局

川からバケツで水を組んでかけてみるとか、いろいろな手法を試してみたい。

●会長

実際に開園して人が来ることを想定すると相当の圧がかかると思うので、極力実態に近い状況での試験でないとわからないと思う。砂利舗装試験施工については、業者さんの意見もあるかと思うので、もう少し検討してほしい。

(1) 屋外展示追加基本設計（案）について

③追加指定地等の整備計画（案）について

【資料説明】

「資料 6」を用いて説明

【質疑応答】

●委員

追加指定地の敷地の右上に茶色で表現されているのが溝か。

「三重津御船屋絵図」に描かれているものと形が違う。

溝を表現するのはよいが、形が違うので、そうするとあえて平面表示までする必要があるのかなというふうに感じた。

○事務局

確かに絵図を見ると、敷地東側の溝は中ほどに土橋状のものを設けたような形で走行ラインも直線的ではない。ただ、実際に発掘調査で確認されている溝の西岸ラインは、ほぼ直線状に検出されていて、絵図にある土橋状のものも確認されていない。現地の溝の平面表示は発掘調査の成果を基に表現しようと考えている。

●委員

資料内の 8-3 区では溝は検出されていないが、17 区で検出されている溝の延長上に存在すると思ったということか。

○事務局

17 区での溝の検出状況から考えると、恐らく直線的にいくのではないかなというふうに思っている。実際、現地にはこの溝の名残が今も残っているので、こういう延長で溝はあったというふうに考えている。

●会長

そのあたりは説明の仕方かもしれない。

資料 6 の B 案と C 案の違いは園路の有無となっている。

史跡の整備のやり方として、埋戻して芝を張るというパターンは非常に多い。福岡市で

も史跡をこのような形で整備している事例は多い。これはある意味仕方ないのかもしれないが、活用の面から見ると非常に悩ましいところでもある。

園路の有無でどこが違うか考えてみた。

園路があると、園路に沿って回るといふ暗黙の強制力が多少働くので、そこに設置された解説板を全部見てくれる可能性が少し高くなる。但し、園路に沿って巡ってみて「何だ、これだけか」といふ印象を与える可能性も同時にある。なかなか難しい問題というふうにする。

ただ、個人的には B 案の評価に書かれているような、園路があるから広場としての使用が制約されるということにはならないと思う。

●委員

この場所は、沿岸道路の下になるのでほぼ日陰になると思う。日陰対策というか夏の対策で、意図的にここに誘導して園路沿いに置いたベンチで少し休憩し涼むとかいふ活用策は考えられるのではないか。活用の部分だけで見ると、園路はあってもよいと思う。日陰であることが活用のヒントになるかもしれない。

●会長

現地には全体的に日陰がない。夏場の見学者にとって、日陰がないことは実は結構大きな問題。今の意見、大いにありうると思う。

この場所まで来て、芝生だけで何もないとなると、折り返して戻ってしまうことが大いに想定される。来訪者になぜここが史跡として追加指定されたのか、その理由を感じてもらいたいと思う。そうすると、強制動線としての園路を設けるのも一つの考え方かなという気がする。

●佐賀城本丸歴史館

本丸歴史館でも本丸御殿の平面表示を最近施工した。計画段階で同じように園路と日陰の問題があったが、結論からいくと園路を設けることによって多くの来館者が園路に沿って歩くこととなり、そこに置いた解説板を当たり前のようにならされている。

もう一つ、日陰の設置はボランティアからかなり要望が出ていた。施工段階で平面表示と重なる場所にあった松は切ったが、平面表示から外れているものは切らずに残した。それほど大きな日陰をつくるわけではないが、ボランティアが来館者を案内する中で気持的に日陰が見えると夏場でも落ち着くといふか安心感があると言われている。

あと、砂利舗装についてテストをするということだが、失敗例を紹介する。

県立博物館の横に岡田三郎助のアトリエを移築した際、周囲に透水性舗装を施工している。失敗しているのは、透水性舗装よりも高いところに土を盛ってしまって、雨が降るとその土が流れてきて透水性舗装の目詰まりの原因になっていること。今回の実施予定の場所もすぐ西側には堤防があるので、テストではそのことも勘案したほうがよいのではないかと感じた。

●会長

園路を設置するかしないかでコスト的にそんなに差が出るのか。

○事務局

イニシャルコストも幾らかかるといふが、気になるのはランニングコスト。維持管理は

ずっとしていく必要があるので、そのことをどう考えるかという問題。

溝の遺構表現については、事務局案としてC案を説明したが、内部的にもいろいろ意見が出ている。出た意見をどういうふうに整理するかというのはあるが、史跡の整備としては幾らかの遺構表現はあったほうがはわかりやすくなるということで一旦C案で説明をした。

●会長

園路も設けるとしたらどんな感じになるか。

○基本設計業者

舗装材は既にある舗装の素材と揃えたほうがよいと考え、アスファルト・透水性コンクリート舗装で検討している。

●委員

動線計画でいうとロングコースにあたるので、時間に余裕があったり、関心が高い方がここまで足を運ぶのだろうという気がする。ここまで来て、堤防上に兵学校跡の石碑や案内解説板があって、その場所から現地に降りていくのかなと思う。そういう意味では、堤防上のサインが大事になると思うが、現在サインが設置されている場所はスペース的に車道との余裕がない。可能ならば今の看板の位置をずらして、安全性の確保を考えた方がよいのではないかと感じている。そういうことは可能なのか。

○事務局

現在サインや石碑が置かれている場所は堤防内なので、河川事務所と協議は必要となる。

ただ、今スペースの中で、少し奥にサインの位置を動かすというのは可能ではないかと思う。

●佐賀城本丸歴史館

先程の広場と園路の話について、本丸歴史館で園路を設けた最大の理由は車椅子利用者のため。芝生だと車椅子利用者は無理ということと、健常者でも雨上がり時は足元が濡れるので中を歩かないだろうと考えた。そういうことを勘案して、解説板がある場所に随時園路を追加した。

もう一つ、溝の平面表示のことだが、本丸歴史館でもこういう建物が建っていましたがというのは、館内で図面とか模型で示している。しかし、現地に平面表示してみると実際のサイズ感スケール感が分かる。館内で見た図面のあの部分が、目の前に見えている30メートル50メートルだというのが分かると、全体の規模感が想像できる。そういう意味では非常に有益だとは思っている。

●会長

スケール感の問題で思い出すのは、一頃話題になった築堤。カーブの石組等がきれいに見える所だけ残してあとは取り除いた。しかし、はるか先まで見渡せる石組、実際に見てみるとそれだけで価値がある。もったいないことをしたなと思う。

現地を見てもらう一つの目的はスケール感だと思う。

これまでの議論として、1点目は溝の平面表示が必要かということだが、やはりあったほうがよいのではないかと思われる。ただ、悩ましいのは、発掘調査で分かっている部分だけでなくその延長も表現するかということ。発掘調査部分だけにしたとしても、それが遺

構表現として正しいのかということとそうでもないもので、どちらにしても、ちゃんとした説明をしながらということなると思う。

2点目は園路。必ず必要ということではなくて、あることによるメリットはかなりあると思うので、もう一度検討してほしいと思う。

(2) 屋外展示追加基本設計の取りまとめについて

【資料説明】

「資料7」を用いて説明

【質疑応答】

特になし

※次年度：現地整備に向けて実施設計を行う予定。

委員会開催時期：令和5年5月下旬を予定。改めて日程調整を行う。